

審 査 結 果 の 要 旨

論文題目「喉頭癌、下咽頭癌に対する根治術後 Quality of Life(QOL)改善のための研究」

学位申請者 酒井 昭博

本論文は喉頭癌、下咽頭癌に対する根治治療後、特に根治手術後の QOL の改善を目的とした論文である。術後合併症の回避についての危険因子の検討、患者術後 QOL、特に肩関節機能の改善、下咽頭癌の早期発見のための新しい診断法の開発について臨床的に詳細に検討されている。

以下のような質問がなされた。

1. QOL 評価について
 - 1)現状と今後の展望
 - 2)アンケート調査の妥当性
2. 術後合併症に関して
 - 1)解析方法
 - 2)評価項目と交絡因子
 - 3)補助療法としての術後化学療法、放射線治療の歴史、問題点
 - 4)上記を踏まえた対処方法（術式の問題点を含む）
3. 頸部郭清術（肩機能）に関して
 - 1)診断と適応
 - 2)臨床解剖学的事項
 - 3)術式の問題点
4. 下咽頭癌の早期発見に関して

上記の臨床腫瘍学、頭頸部外科学に関する幅広い質問に対して、申請者は自らのデータ、臨床経験、過去の文献や国内外での最新の動向を踏まえた知識に基づいて的確に応答した。さらに現状と将来を見据えた考察と意見を明確に解説した。

本論文は喉頭癌、下咽頭癌に対する根治術後における臨床的な解析により、診断、治療、手術術式の開発や改善など臨床実用性の展望を明確に示しており、大変価値の高い論文内容と考えられた。

以上の結果、本論文は学位論文として十分な内容を有するものと審査委員全員の一致で判定された。したがって、申請者 酒井 昭博は東海大学博士（医学）の学位を授与されるに値すると判断した。

論文審査委員

主査	博士（歯学）	太田 嘉英	医学部教授	（医学研究科先端医科学専攻）
委員	博士（医学）	宮坂 宗男	医学部教授	（医学研究科先端医科学専攻）
委員	博士（医学）	三上 幹男	医学部教授	（医学研究科先端医科学専攻）
委員	医学博士	大上 研二	医学部教授	（医学研究科先端医科学専攻）
委員	博士（医学）	正門 由久	医学部教授	（医学研究科先端医科学専攻）